[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏名　伊藤　千顕

本研究は、世界最大規模の在外日本人勤務者コミュニティーを有するタイにおいて、日本人勤務者の HIV 感染リスク行動を含む性行動を明らかにし、将来の効果的な介入を視野に入れた政策提言を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 構造化質問票の回答の集計の結果、42.6%がタイに来て以来性交渉の頻度が増えた、と回答し、51.0%が性交渉の相手の人数が増えた、と回答したため、タイ渡航前後の性交渉の頻度の増減と相手の人数の増減に顕著な相違が認められた。
2. HIV/AIDS に関する知識に関しては、67.8%が HIV/AIDS に関する用語の定義、85.4%がタイと日本の HIV 感染率の比較において、それぞれ適切な知識を持っていた。一方、HIV 感染経路に関しては、可能性がある感染経路を多重回答において適切に回答できた者は全体の 32.2%であった。
3. HIV/AIDS 情報の主な入手経路に関しては、64.6%がインターネット、71.0%がテレビ、と回答した。テレビと回答した中で、93.5%が NHK 国際放送と回答した。一方、タイの検疫所や空港、と回答したのは 1.9%であった。
4. 仕事上や接待での飲酒の後、集団で性風俗産業を利用することも FGD の結果から明らかになったため、日本企業文化と現地の性行動の関連が示唆された。
5. タイに来て以来の性行動の活発化に影響を与えた関連要因を探索した結果、男性、独身者、自由に使える 1 ヶ月のお金（お小遣い）が約 15 万円以上、寂しさ、疎外感、行動が活発、開放感等の項目が有意に影響を及ぼしていたことが判った。
6. 本研究で定義したハイリスク行動を取った 94 名中、77 名が男性で既婚者であったため、タイにおける本人の感染リスクだけでなく、日本へ帰国後の配偶者への感染拡大の可能性が示唆された。
7. ロジスティック回帰分析の結果、HIV 感染者は見かけで判断できるという考えなど、HIV/AIDS に関する信条や知識、及び勤務する職場における HIV/AIDS の取り組みが、HIV 感染リスク行動に関連すると示唆されたため、職場での介入や NHK 国際放送などの在タイ日本語メディアを通しての啓発活動が有効であると考えられた。

以上、本論文は在タイ日本人勤務者の性行動の解析から、性交渉を介した HIV 感染リスクが男性を中心に示唆されたため、この集団への介入プログラムの立案が急務であることを明らかにした。本研究は、代表性を確保した調査が困難であることから、科学的根拠に基づいた研究は希少であった当該題目において、性行動の実態を明らかにし HIV 感染リスクを同定したことによって、将来の介入プログラム立案において重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。